

金沢こころの電話



ほっとライン

No.127

 金沢こころの電話
 ご相談は… 222-7556

 シルバーこころの電話
 260-7272


今年度は、金沢こころの電話の50周年記念事業がもたれる予定であるが、2024年1月1日の能登半島地震及び、同年9月の奥能登豪雨災害の二重災害の復旧・復興が継続中であるということから、ささやかな記念式典と内輪の催しが行われる予定である。

本年度の重点目標は、①会

50年の節目の 年度の始まりに想う

公益社団法人金沢こころの電話 会長 村田 進

員・賛助会員の増員を目指す、②相談員の質の向上および人材育成に努める(相談者のところに寄り添い傾聴に努める)③自殺防止に取り組む④被災者支援に取り組む、であり、昨年度に引き続き、被災者支援が重点目標になっている。昨年末には、第49期認定式で、新たな会員の誕生を祝うかのように、被災者のための後方支援の一環として、日本いのちの電話連盟主催の「いのち奏でるコンサート」が開催され、日本いのちの電話連盟の堀井茂雄理事長の講話の後、京都カルテットの4人の演奏者の演奏があった。被災者の電話相談に与ってきた金沢こころの電話の会員への癒しのメロディが披露されて、会員への心強いエールとなった。音の共鳴からも心を

令和7年度 定時総会報告



祝辞を述べられる
谷野明勝 少子化対策監

公益社団法人金沢こころの電話の定時総会が5月11日(日)県社会福祉会館大ホールで、出席者、委任状を含め77名のもと開催された。

総会に先立って、当番活動

10年以上、当番回数200回以上の1名に会長より表彰状と副賞が贈呈された。

来賓として石川県健康福祉部少子化対策監 谷野明勝氏

伝え合うことの大切さを思

い、後方支援の連帯意識が今後もつながることを願ったのである。私たちが拠って立つ

創立当初の理念に立ち返り、能登の災害のPTSD(被災

後ストレス症)の増加や、災

と小暮宏美氏
当法人相談役
木越明子氏が臨
席された。谷野
氏からは「永年
にわたり無報酬
で、色々な心の
悩みを抱えてい
る方々に対し耳

を傾け、寄り添い活動が続けてきたことに敬意を表します。また、精神疾患や自殺者も増えている現状にこころの電話の存在に益々の重要性を感じています。」等、温かい言葉をいただいた。

総会は定款に基づき会長を議長として進められ、第1号議案の令和6年度事業報告、第2号議案の収支決算報告と監査報告がなされ可決された。

害関連死の対策に、今年は一層焦点を当てて取り組む所存であり、その意味で、私たちを物心両面でサポートし続けてくださる関係者の皆様には、今後の一層の温かいご支援を希う次第である。

第49期生 認定式

日時：令和7年3月23日(日) 場所：金沢勤労者プラザ音楽室

認定式を終えて ～49期生の皆さんの一言です～

▼認定式では先輩方に今の気持ちや話を話す場面がありました。突然のことでもとても緊張しながら話し始めると、養成講座の際、特にお世話になった先輩が「うん、うん」と頷きながら聴いてくださって「ああ、見守って聴いてくださっている」と感じ、ホッと少し自信を持ち話すことができました。そして傾聴が人に与える力を実感する経験になりました。

諸先輩方のお陰でスタートラインに立てることを忘れず、学んだことを最大限に生かせるように努力していきたいと思っています。そのためには自分の課題はこの活動の継続だと思っています。活動する中で辛く感じることもや、悩むことが必ずあると思います。その

人の心はその人にしか本当は分かりません。不安、迷いはありますが、相談者の心の内に少しでも近づけるように、丁寧な応対をしたいと思います。

(T・M)

▼認定式を無事に迎えることができた安心感と同時に、これから実践が始まる自覚が生まれ緊張感も感じています。



時は素直に自分の弱さも認めて同期のメンバーや先輩方に相談したいと思います。それが相談員を継続できる秘訣だと思います。今から表明するのも図々しいのですが、その際はどうぞよろしくお願い致します。

(S・M)

▼AIの時代が到来し、人生の様々な悩みをAIが答えてくれるアプリや、SNSを通じて、リア友がいなくてもネット友として繋がる若者も増えている時代。

そんな時代でも変わらずに歩み続けてきた「金沢こころの電話」。志を同じくした諸先輩方の積み上げてきた実績が、今もこうして引き継がれている。常に新たな課題を見出しながらアップデートし、相談員としての資質を向上させているこのメンバーの一員として、認定を受けることができたことの喜びと重責をひとと感じています。

今年の49期生は少人数だからこそ気持ちが一いつになれ、常に迷いながらもポジ

ティブに捉え、学ぶことの喜びやワクワク感を持って受講することができました。素晴らしい先輩と、良き仲間恵まれたことで、どれだけ励みになったかと感謝の念に堪えません。

これからの実践に向けて、今までの学びを活かしつつ、常に学ぶ姿勢を忘れず、相談者のところに寄り添い、相談者が希望を見出す一助となれるよう精進して参りたいと思います。

(N・H)

▼認定式を終えてこれから始まるのだと気持ちを新たにしました。

看護師の仕事の経験から、身体的病気は治療できても心が病気に向き合っていないと、回復をさまたげたり心をも病んでしまったり、治療する為には心が整っていないけれどということでした。それが金沢こころの電話の電話相談員養成講座に応募しようと思ったきっかけです。今の世の中、少子化や超高齢社会、子供や成人のネットやSNS



の害など、生きていくことが大変な時代だと思っています。そんな中で金沢こころの電話を知り研修を受けて自分もかわることができるとかと思ひ、受講を決めました。

研修中のロールプレイでは自分の傾向に気づき、相談を受ける難しさを実感しました。今後の活動もわからないことが多く不安なことばかりですが、先輩の方々に相談しながら学習を続け、電話して良かったと思ってもらえるようにつとめていきたいと思っています。

(S・K)

金沢こころの電話会員のためのいのち奏でるコンサート 講話&いのち奏でるコンサート(お話とカルテット)



認定式の後、日本いのちの電話連盟 堀井茂男理事長(精神科医)と佐合事務局長が被災県である金沢こころの電話を応援したいとの主旨で来県された。堀井理事長の講話の後、「京都カルテット」のメンバー4名によるコンサートが行われた。園城三花氏を中心にいのちの輝き、尊さをテーマのトークコンサートは参加者の心に寄り添い、癒しとなりすばらしい時間となった。

♪ 京都カルテット ♪

1985年フルートの園城三花、バイオリンの釋伸司を中心にアンサンブル演奏を始め、2019年から「京都カルテット」として「いのちの輝き、尊さ」をテーマに疲れた心に寄り添い、いのちの大切さを思うひと時をともに過ごすトークコンサートを全国で展開している。

♪ 曲 目 ♪

ブラハ「共鳴 Resonance」
「ブリティッシュグレナディアーズ」
パッヘルベル「カノン」
モーツァルト「フルートカルテット二長調Ⅲ」
ピアソラ「リベルタンゴ」
加古 隆「パリは燃えているか」
「アメージンググレース」

能登半島地震から1年5カ月が経ち、「被災地は着実に復興に向かっていく」と私たちが感じていたかもしれない。今回の研修では、今でもがれきや土砂が手付かずの地域があることや、先行きの見通しが立たず、不安を抱えて暮らす被災者の現状について、支援活動を交えたお話が

きけた。
現在も、仮設住宅には、多



全体研修

能登半島地震の支援と現状

- ◆ 日時…令和7年6月1日(日)
- ◆ 場所…石川県社会福祉会館F会議室
- ◆ 講師…田中純一氏(北陸学院大学社会学部災害社会学教授)

くの人が暮らしていると言
う。国の復興対策や支援が充
分届かないことも大きな課題
だが、仮設住宅での不自由な
生活が続く、人と関わる機会
が少ないことが、孤立を深め、
生きる希望を持てないことも
生活再建を阻む問題ともなっ
ているとのこと。

生活を立て直していく過程
では、これからどこで、誰と
どんな風に暮らしたいのか、
自分の思いを、誰にも否定さ
れることなく、自由に話せる
場所があることも必要だ。人
とつながり話せる場所があれ
ば、元気を取り戻し、夢や希
望を持つことにもつながる。
そのための対話の場を提供す
る「足湯ボランティア」の活
動のなかで、全く話さない利
用者に無理に話させようとし
ない、相手が話せるようにな

るまで待つことも、支援のひ
とつとエピソードを交え話し
ていただいた。

また、これからは、一人ひ
とりの声を聴き、個別の状況
を把握したうえで、生活再建
を支援する「災害ケースマネ
ジメント」という支援の取り
組みも始まっている。

住宅は生活再建の重要な要
素のひとつだが、それだけで
は被災者の豊かな暮らしの再
建は実現できない。能登の暮
らしのなかで育まれてきた、
海・山・畑との関わりなど、
その人が大切にしてきた豊か
な暮らしを支援する側が理解
したうえで、再建を支援して
いくことが求められる。

被災者の「じゃがいもは
待つてくれないから」という
声を聴いて、苗を植える時期
までに畑をきれいに整備し、
支援したことで、元気を取り
戻した事例が印象的だった。
今後、被災者の方の声を聴く
ときに、今日学んだことを生
かしていきたいと思う。

**2024年度 賛助会費・寄附金 感謝報告**

(2024年4月1日～2025年3月31日)

金沢こころの電話の運営のために温かい資金援助をいただきました。心から感謝しご報告いたします。
これからもご協力下さいますようお願い申し上げます。(敬称は略させていただきます)

【賛助会費】**○個人**

池野裕子 石川誠子 泉 信次 伊藤美津子 今井宏和 上瀧 大 植松 茂 上田佳壽子
 浦田早知・肇 遠藤陽子 大窪智子 大浜美映子 小野ツルコ 鍛冶ミヨコ 角谷澄栄 加藤佐敏
 河合隆平 川浦幸光 木越トヨ子 熊野ユリコ 窪田幸子 越島正喜・伸子 紺谷博子 齊藤千代
 坂本恭子 櫻井直子 笹木絵里 佐宗 功 佐藤順子 佐野勝俊 柴野南津 下田葉子 助佐直子
 高木要子 高澤タマエ 高地松美 高山静子 武田陽子 橋 昌憲 田中千鶴 土家佳奈子 土橋登志子
 釣見民子 出川常俊 出口房子 寺井亮三 問谷元子 徳沢愛子 虎谷順子 得永嘉昭 富田 寛
 直江茂行 中島章雄 永原伸一郎 中村 哲 中山 栄 新田由美子 能登準一 狭間千代子 浜田典子
 針田典泰 広瀬照代 福岡恒忠 福島 純 福島由貴 藤下順道 藤谷明子 二宮葉子 細野昭雄
 松井 繁 松本れい子 水田美代子 宮村 泉 宮本道子 宮本奈津子 宮森恵子 村本高志 八木雅夫
 やぶしたかよ 山口正雄 山下由美子 山野俊一 山村英子 山本静子 湯浅光吉 由水 充 吉川玲子
 石丸順子 匿名の方

○法人・団体

石川県織物構造改善工業組合 石川県織物工業協同組合 (公社)石川県看護協会 (一社)石川県経営者協会
 石川県商工会連合会 (一社)石川県鉄工機電協会 金沢商工会議所 金沢原系織物商業協同組合
 加賀建設(株) (医)浅ノ川桜ヶ丘病院 (医)長久会加賀こころの病院 (医)松原愛育会
 (医)稻和会わせだクリニック 紺谷内科婦人科クリニック 和田歯科医院 (株)久世ペローズ工業所
 技研(株) (株)小林太一印刷所 (有)桜谷設備企管 JA石川県連 (学法)白銀幼稚園 第一電機工業(株)
 ダイワ通信(株) (財)日本電信電話ユーザー協会石川支部 日蓮宗石川県第一部宗務所 (株)橋本清文堂
 ホクショー(株) 北陸学院高等学校 妙応寺 司法書士 山本勝

【寄付金】 木越明子 土田陽子 山内ミハル 匿名の方々

※賛助会費の振込は下記口座へお願い致します。

▶郵便振替口座 00710-4-13987 「金沢こころの電話」

**賛助会費・ご寄附等 合計 1,946,368円****おことわり**

研修会などの報告は、広報部
 会が依頼した会員が書いたも
 のです。
 内容については個人の解釈も
 あることをご承知ください。

発行 公益社団法人
 金沢こころの電話
 事務局 〒920-0964
 金沢市本多町3-1-10
 電話 (076)222-7531
 F A X (076)222-5352
<http://kkd-ishikawa.jp/soudan>
 e-mail kkd@beach.ocn.ne.jp
 編集 広報部会
 印刷 (株)橋本清文堂

50周年を迎える
 年度。諸先輩方の
 歩みの積み重ねの
 結果、今があると
 ひしひしと感じ
 る。これからも、電話を通じた
 支援の継続に力を注ぎたいと強
 く思う。
 創立50周年記念誌発行の時期
 と重なるため、「ほっとライン」
 は10月は休刊とし、来年2月が
 次号となる。周年記念事業の報
 告を次号でもさせていただきます
 い。(記 T・A)

編集後記